

令和 4 年 7 月 22 日

## 令和 4 年度 総務経済委員会 行政視察報告書

伊豆市議会 総務経済委員会

飯田 大

日 時 令和 4 年 7 月 12 日 (火) ~ 7 月 14 日 (木) 3 日間

場 所 令和 4 年 7 月 12 日 (火) 午後: 島根県邑智郡邑南町役場  
7 月 13 日 (水) 午前: 広島県山県郡北広島町まちづくりセンター・役場  
同日 午後: 島根県邑智郡邑南町内施設

### 目 的

1. 「A 級グルメ」・「日本一の子育て村」によるまちづくりについて
2. 島根留学について
3. ふるさと納税返礼品の仕組みによるまちづくりの構築について

### 視察報告

#### 1. 島根県邑智郡邑南町「A 級グルメ」について

邑南町は島根県中部の山間にあり自然豊かな町で人口 10,087 人、面積は 419.3Km<sup>2</sup> 86%が山林、主な産業は農林業。高齢化率は 45% 少子高齢化による人口減少が進んでいる。町では平成 23 年に攻めと守りの定住プロジェクトを立ち上げ攻めの A 級グルメ構想「A 級グルメのまち」を 3 月に商標登録をした。「食」と「農」を結び付け、邑南町のブランドとした。

A 級グルメとは農林商工等の事業者が連携し伝統、創造を生かし誇りをもって生産、加工、料理、交流が大衆に支持され、永久に邑南町食文化として継承される取り組みです。

理念の一つに食文化を大切に、農業を元気に地域の誇りを育む(ビレッジプライド) = 美味しいものは地方にある。⇒邑南町に行こう。

町の活性化、観光の誘客、起業家の育成、若者の定住に繋げる取り組みとして、地元食材を活用した料理の提供 高級レストラン「里山イタリアン AJIKURA」の開設、「耕すシェフ」を受け入れ研修生の育成と目指す事業の指導を行っている。二度の夕食でのメインディッシュ、石見和牛ステーキは美味しく地元産の野菜料理とのマッチングは最高でした。

廃校を利用した食の学校では町内食材を活用した商品開発、郷土料理の研究・伝承シェフによる料理講座(キッズキッチン)などを行っている。また、和牛の繁殖、育成を行う牧場とチョウザメの養殖場、古民家を改装したそば処を見学した。

### 取組の成果

定住者の確保目標 200 名 結果 240 名 達成率 120%

起業家数目標 5 名 結果 43 名 達成率 860%

にっぽん A 級(永久)グルメのまち連合が設立され令和 4 年までに 4 町が加盟し、事務局を都内に置くなど全国に展開されている。自然豊かな伊豆(広域)ではいずれの条件も整っている「食」「農」「漁」「温泉」をブランドとしたい。

#### 「日本一の子育て村」によるまちづくりについて

全国的に進む急速な少子高齢化は邑南町においても同様である。町では人口減少対策に取り組む柱として「日本一の子育て村構想」を策定した。

取り組みの内容は子育ての不安や孤立感に悩む保護者、家庭や地域の養育力低下、養育の保証等の課題に対し住民、地域、行政が一体となり「地域で子育て」をキーワードに事業を開始した。

事業の理念は「地域で子育て、未来を創るみんなが笑顔で暮らせるまち、おおなん」とし 2,011 年より 10 年間で構想目標値 0 歳から 18 歳人口を 1,800 人とした。

主要な施策として 0 歳から義務教育終了まで医療費が無料、保育費が第 2 子目以降完全無料、保育所完全給食を実施、保護者の負担軽減を図っている。医療体制は町内に救急病院があり、小児科、産婦人科医が常勤している。子育て支援では子供丸ごと相談室を開設し福祉と保健の担当者が子育ての応援体制を担っている。

構想後の人口動向は 2,019 年では 1,355 人へと減少し、上記構想目標には達していない。伊豆市移住の子育て世代には近隣市町よりも暮らしやすさを感じる具体策を講じたい。

## 2. 島根県立矢上高等学校島根留学について

島根県立矢上高等学校は普通科、産業技術科からなり、生徒 277 名(県外 54 名)が学んでいる。邑南町出身者は 52%を占める。町外出身者はほとんどが寄宿舎生活をして勉学に励んでいる。

基本理念は「地域社会の未来を共に生き抜くたくましい人間づくり」と頼もしい。

校訓は「腕に覚えのある人間」「筋金の通った人間」「思いやりのある人間」とユニーク。

#### 教育目標

- (1) 教養と技能を身に着け、目標に向かって主体的かつ誠実に行動する人を育てる
- (2) 自他を尊重し、他者と協働して共に学び高め合う人を育てる
- (3) 地域の産業や文化に関心を持ち、地域や社会に貢献しようとする人を育てる

上記理念、校訓、教育目標を基に

- 小規模校のメリットを生かした習熟度別授業・少人数指導により、生徒の学力や到達度に応じたきめ細かい指導を展開
- 地域住民・地元企業との密接な連携により、探究的・協働的な学びを充実するとある。これを矢上高校と地域の未来をつくる会がバックアップをしている。

学校パンフレットより「本校を希望される方は、必ず一度は学校を訪問してくださいと明記されている。

求める生徒像は

- 中学で身につけた基礎学力をもとに、知識と技術の習得を目指す生徒
- 高校で学ぶ自覚と目的意識を持ち、物事にひたむきに取り組もうとする生徒
- 思いやりを持ち、様々な立場の人と協働しようとする生徒
- 農業や工業に興味と関心を持ち、実習や資格取得などに意欲的に取り組む姿勢のある生徒(産業技術科)

寄宿舍案内では部屋の間取り、食事、年間行事、舎費等が記されている。

県外生徒の受験までのスケジュールは6月～10月オンライン説明会・個別訪問対応8、11月オープンスクール、11月入試要項公表、12月願書取り寄せ等身元引受人との面談1～3月出願推薦選抜・一般選抜と記されている。

伊豆市内唯一の県立伊豆総合高等学校並びに土肥分校の将来像を明確にして生徒の確保方策を図ることが重要である。しまね留学の事例の実績、経過の分析が重要です。

### 3. 広島県山県郡北広島町ふるさと納税返礼品の仕組みによるまちづくりの構築について

北広島町は西中国山地にあり、北部は島根県と接している。県庁所在地広島市へは45分と利便性に富んでいる。平成17年4町の合併により誕生し、人口は17,624人。面積は646.2Km<sup>2</sup>で中国地方一の広さを誇る。面積の80%以上が森林。

主産業である稲作関連事業として今年12月3日に全日本お米グランプリが町内まちづくりセンターで開催される。

北広島町役場到着後、三宅議会事務局長の出迎えを受けて北広島町まちづくりセンター会議室にて町議会議長湊俊文氏より歓迎のご挨拶をいただきました。続いて北広島町まちづくり会社「はなえーる」事務局長沖中氏より誕生から経営理念、今後の活動方針についてスライドを用いて北広島町の概要と共に説明をしていただきました。

会社名「はなえーる」は方言で「始める」新たな挑戦をスタートさせ、町全体が元気になるよう応援し続ける組織を目指す思いを含め命名された。

活動方針は地域で育まれた伝統・文化、農業や産業技術を最大限に生かしていく。

ふるさと納税額の拡大と共に、地元産返礼品の提供など特産品や観光コンテンツの開発を進めていく。

返礼品はコシヒカリ等地元の精米、たまご、ワイン、果物、ジャム、タワー型スピーカー等があげられる。

一般社団法人北広島町まちづくり会社「はなえーる」は今年5月に設立され、新しいまちづくりに挑戦する姿勢がうかがわれた。その後道の駅舞Road IC千代田を見学し北広島町行政視察を終了した。

以上